



同型の高規格救急車

入札とした。
【論点②】 車両の更新等の考え方
 ・消防ポンプ自動車は日本消防検定協会が承認した型式として
 いる。
 ・納車時期については、11月30日を予定しており、現在使用している車両は車検の有効期間が満了するが、納車までの期間は保有している他の車両で対応が可能であるため問題はない。
【論点③】 白川出張所への高規格救急車配備に伴う白川村の負担
 ・取得費用の全額を白川村が負担することになっている。

◆**議第3号**
 議員より「奨学金制度の充実等を求める意見書」が提案され、全員一致で可決しました。

高根町阿多野郷
 森本喜久久さん

◆**議第57号**
 人権擁護委員候補者の推薦について
 次の方を人権擁護委員として同意しました。

◆**議第59号**
 平成28年度高山市一般会計補正予算（第1号）他（P12参照）

◆**議第59号**
 各委員会の委員長報告の後、採決を行いました。
 議第50号については、賛成多数で、その他は全員一致で可決、同意しました。

6月22日 本会議

6月21日
 予算決算
 特別委員会

議 員 発 議

6月定例会において、下記のとおり意見書を全員一致で可決し、内閣総理大臣をはじめ、衆議院議長、参議院議長等に提出しました。

奨学金制度の充実等を求める意見書

我が国は、憲法や教育基本法の理念に基づき、独立行政法人日本学生支援機構を設置し、学生を支援するべく奨学金事業を遂行している。現在、18歳以上の過半数が大学等に進学しており、その大学等進学者の約半数が同機構の奨学金制度を利用してきたことは、憲法に規定する「その能力に応じてひとしく教育を受ける権利」を保障してきたものである。

高山市でも高等学校卒業生の約7割が大学等へ進学のため市外・県外に居住し、多くが親元を離れて二重生活をおこなっている。世帯収入が減少するなかで授業料に加えて住居費や生活費など教育を受けるための負担が地方で特に重く押し掛かることから、学生の多くが奨学金制度を利用している。

近年、奨学金の貸与者数および貸与金額が増加する一方で、学生の就職難や非正規労働の増加などから、卒業後も奨学金の返還が出来ずに生活に苦しんでいる若者が急増し社会問題となっている。

よって、国におかれては、意欲と能力のある若者が家庭や地域事情にかかわらず、安心して学べる

よう、新たな給付型奨学金を創設するなど奨学金制度の充実を図ること、また、卒業後に安定した就職ができるよう環境整備に取り組まれるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成28年6月22日
 高山市議会

